発行所 毎日新聞社 ©
東京本社 （東京都千代田区一ツ橋1-1-1）
〒100-8051 電話(03)3212-0321
大阪本社 （大阪市北区梅田3-4-5）
〒530-8251 電話(06)6345-1551
西部本社 （北九州市小倉北区紺屋町13-1）
〒802-8651 電話(093)541-3131
中部本社 （名古屋市中村区名駅4-7-1）
〒450-8651 電話(052)527-8000
北海道支社 （札幌市中央区北四条西6-1）
〒060-8643 電話(011)221-4141

THE BRAILLE MAINICHI
点字毎日
活字版
毎日新聞社

1年12,856円(本体11,904円、消費税952円)
半年6,428円(本体5,952円、消費税476円)
毎日新聞社点字毎日部
電話06-6346-8386(編集)/8388(営業)
FAX06-6346-8385/振替口座00920-0-450
〒530-8251大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社内

2019年 （令和元年）
8月22日 木曜日

第1078号（点字版4953号対応）
毎週木曜日発行
平成10年5月18日第3種郵便物認可・年間発行回数50回

就労支援組織が情報交換会
現状と課題を共有
全国から23団体が参加

視覚障害者の就労支援に携わる団体による情報交換会が3日、東京都新宿区の日本盲人職能開発センターで開かれた。初めての試みで、東京や大阪をはじめ、札幌など地方都市で活動する組織も含めた23団体が参加した。それぞれの地域の実情を反映した取り組みの様子を報告し、情報を共有した。地元で活用できる社会資源に地域差がある現状など、課題も整理した。【山縣章子】

視覚障害者の就労支援に関わる団体が集まり、取り組みや課題を共有した

視覚障害者の就労支援や就労相談は、障害者総合支援法によるサービスをはじめ、労働分野の公共職業訓練、NPO法人などによる有料の訓練など、多様な形態で実施されている。また、対象となるのは、新たに仕事に就く人に加え、病気の進行に伴い歩行訓練やパソコン訓練が必要になった人、休職中で職場復帰を目指す人など、状況もさまざまだ。こうした現状の中、各地で活動する団体が集まり、ノウハウを共有しようと初めての情報交換会が企画された。

初会合では、全国に共通する課題として、ハローワークや障害者就業・生活支援センターなど就職に関わる機関との連携、見えない障害者が活用できる社会資源が乏しい実情も伝えられた。ある障害者就労支援施設の場合、視覚障害者は年に1人利用する程度で、支援体制の充実が難しいことも紹介された。地域格差解消に向けては、情報通信技術を活用した遠隔支援の実用化に期待する声も相次いだ。

就労支援策の充実のためには制度改革も求められる。参加団体は今後も定期的に集まり連携を深めながら、視覚障害者の就労環境の向上に努めることを確認した。

「一般企業と働けないと思っている企業が依然として多い中での啓発の強化が求められた。また、複数の団体から、就職する際に求められる技術が上がり、ただワードなどのソフトが扱えるだけでは仕事につながらないとする指摘があり、それぞれの活動で対策を模索していることも報告された。

地方の団体からは「地元に在職者の訓練ができる団体がない」「障害者雇用に取り組む企業が少ない」など、活用できる社会資源が乏しいと対立だてながる数求いると

バリアフリー百人一首
全国大会 東京で
11月

視覚障害者が百人一首かるたの腕を競う「バリアフリー百人一首全国大会」が11月に初めて東京で開かれる。参加申し込みの締め切りが8月31日に迫っており、主催者は「かるたを通して全国の仲間と交流を深めたい。初めての人もぜひチャレンジしてほしい」と呼び掛けている。

全国から参加者を募って試合を行う大会を企画したのは、関東の愛好家グループ「百星（ひゃくぼし）の会」。大会は11月2日午後1時半から、新宿区の東京ボランティア市民活動センターで開く。大会で使われる札の文字は、弱視の人も見やすいよう大きなサイズで表示されている。点字表示もあり、全盲の人も一緒に対戦できる。

個人戦と3人一組の団体戦がある。個人戦は4枚の札を使って行う「四人一首」形式。団体戦は同じ内容の札25枚をお互いのチームに用意して、取れた枚数を競う。参加費無料。詳しくは百星の会（080・7726・1634、平日の午前10時から午後3時まで）へ。【平井俊行】

最先端 AI テクノロジーで生活を豊かに
オーカム マイアイ
OrCam MyEye 2 / OrCam MyReader 2
メガネに装着するだけで、ハンズフリーで使え、
ケーブル配線もないため、便利で安全にご利用いただけます。

ORCAM
OrCam社（イスラエル）製です。
簡単なジェスチャーで目の前の文字を読み上げてくれます。
テキストの読み上げ 使いやすい どこでも機能 顔認識 (OrCam MyEye2 のみ) その他 様々な機能搭載
ケージーエス株式会社 KGS CORPORATION
〒355-0321
埼玉県比企郡小川町小川1004
FAX 0493-72-7337
■お問い合わせ先
☎0493-72-7311(代)
E-mail info1@kgs-jpn.co.jp
URL http://www.kgs-jpn.co.jp

クッキングスケール

重量を音声で告げる

インテックから発売

重量を音声で知らせる「GRUS ボイスクッキングスケール」

インテック（東京都台東区）は、物の重さを音声で知らせる「GRUS（グルス） ボイスクッキングスケール」を発売した。シンプル機能で使いやすい新製品だ。

量りたい物を載せると、重量を1㌘単位で最大3㌔まで音声で重さを告げる。ボタンを押せば、再確認できる。0㌘にリセットするボタンで、お菓子づくりなどで新たに加える材料だけの重さも量れる。電源を切り忘れても、5分たつと「電源オフ」と発声し切れる。側面のボタンで音量のオン・オフが切り替えられ、使い方の説明も聞ける。上皿ははずして洗える。動画サイト、ユーチューブ（https://youtu.be/RZRMuCstjwo）に説明あり。

本体のサイズは幅196㍉、高さ145㍉、奥行き41㍉。重さ約288㌘（単4電池3本含む）。定価は6480円（税込み）。自治体によって、日常生活用具の補助がある。視覚障害者向け用具販売店などで購入できる。問い合わせはインテック（0120・505・857、support@grus.tokyo）へ。

【佐木理人】

シリーズ 視覚リハ

〈4〉

ロービジョンケアを受けられる病院（東京編）

この連載では、日本ロービジョン学会のホームページに掲載されている「ロービジョン対応医療機関リスト」を基に、見えにくさについての専門的な相談やサポートを受けられる医療機関を掲載している。4回目の今回は東京編。

ロービジョンケアの第一歩は、見えにくさのケアをよく知る眼科医療のスタッフ、あるいは詳しい関係者とつながることだと言われている。自分の生活圏内にこうした人のいる施設があるかを知っていることは大切で、目が見えにくくなったときに「どうしたらいいのか」と悩む時間を短くできる。そのことで悩んでいる人に対して、自分が何かの支えになれるかもしれない。

一方で、具体的に対応してくれる病院がどこにあるかを調べるのは容易ではない。2012年度からロービジョンケアに関する検査も診療報酬の対象に加えられるなど、眼科医療における重要さは知られるようになってきた。そんな今だからこそ、必要な情報が困っている患者に伝わるような周知活動が改めて求められている。

一覧は8月上旬まとめ。点毎把握分。掲載は市区町村別で、病院名、住所、電話番号の順になっている。自治体名の後に続くかっこ内の数字は該当する病院の数。予約の有無など詳細は各施設に問い合わせてほしい。

【平井俊行、山縣章子】

◆千代田区（1） 井上眼科病院（神田駿河台4の3、03・3295・0911）

◆港区（1） 東京慈恵会医科大学付属病院（西新橋3の19の18、03・3433・1111）

◆新宿区（1） 東京女子医科大学病院（河田町8の1、03・3353・8111）

◆文京区（1） 東京大学医学部付属病院（本郷7の3の1、03・8655・5800）

◆目黒区（1） 東京医療センター（東が丘2の5の1、03・3411・0111）

◆大田区（1） にしかまた眼科（西蒲田7の69の1 東急プラザ蒲田7階、03・5942・8826）

◆世田谷区（1） 桜上水医院（桜上水5の13の9、03・5374・6788）

◆中野区（1） 新渡戸記念中野総合病院（中央4の59の16、03・3382・1231）

◆豊島区（2） 都立大塚病院（南大塚2の8の1、03・3941・3211）▽平和眼科（池袋1の7の7、03・3971・1095）

◆板橋区（1） 帝京大学医学部付属病院（加賀2の11の1、03・3964・1211）

◆三鷹市（1） 杏林大学医学部付属病院杏林アイセンターロービジョンルーム（新川6の20の2、0422・47・5511）

◆国立市（1） 早川眼科（中1の10の19、042・580・0282）

日本ロービジョン学会の「ロービジョン対応医療機関リスト」は、同会のホームページ（https://www.jslrr.org/）で公開されている。PDFデータをダウンロードできる。また日本眼科医会のホームページ（https://www.ganka ikai.or.jp/）にも「ロービジョンケア施設紹介」のコーナーがあるので、併せて情報収集の参考にしてほしい。

聴きもの見もの

（番組内容変更の場合あり。NHKへの問い合わせは、☎0570・066・066）

【NHK・Eテレ】

◆22日後8：00「バリバラ」＜世界のマイノリティーツアー・後編（再放送）＞

【NHKラジオ第2】

◆24日後7：00「社会福祉セミナー」＜認知症の人の暮らしを支える＞生活支援のポイントと実際。永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター研究部長）

◆25日後7：30「視覚障害ナビ・ラジオ」＜今月のトピックス＞特集は「人のためにできることを 竹内昌彦さんに聞く」を再放送。

【NHK総合】

◆25日後9：00「NHKスペシャル」＜KIZUNA『光』と『影』2人のアスリート＞パラ陸上で視覚障害のある選手をガイドする『伴走者』に注目。最新科学とドキュメンタリーで究極の絆に迫る。